

平成 22 年 9 月 6 日

学校法人溝部学園財務の現状について

学園の収支は平成 14 年～15 年の設備投資（6 億円）が起因して不均衡になっており、それを是正するため各部門毎に独立採算制を基本として、中長期の改善計画をもとに経営基盤の強化に取り組んでおります。

1. 「収支の目標としては」

帰属収支差額最低黒字を維持し 5%以上を改善計画目標としております。
(平成 22 年～26 年)

2. 「単年度実績」

平成 21 年度決算実績

| | | |
|------|--------------|-------|
| 帰属収入 | 1,342,608 千円 | |
| 消費支出 | 1,191,418 千円 | |
| 差 額 | 151,190 千円 | 11.3% |

帰属収入に臨時収入等（前理事長の保険金収入 2 億 4 千万円）が含まれて高い収支差額比率となっており、補正後の収支差額は ¥1,190 千円 0.1%の低い決算内容です。

法人 入学定員充足率 73% 収容定員充足率 68%

短大 入学定員充足率 82% 収容定員充足率 73%

3. 「平成 22 年度の予算見込みについて」

学生生徒数対前年度（法人収容人員 950 名～1,073 名の 123 名増 13%）

入学定員充足率 90% 収容定員充足率 70%

（短大 333 名～425 名の 92 名増 27%）

入学定員充足率 104% 収容定員充足率 92%

収容現員の増加によって

| | | |
|------|--------------|----|
| 帰属収入 | 1,133,526 千円 | |
| 消費支出 | 1,099,958 千円 | |
| 差 額 | 33,568 千円 | 3% |

各部門の改善努力の成果がだんだんと実ってきている状況にあります。

4. なお日本私立学校振興共済事業団の経営判断指標による経営状態の区分について

「経営状況区分」

平成 20 年度は（イエローゾーンの「B.0」の厳しい状況）
平成 21 年度は「A1」の正常の指標区分ですが臨時収入分等を含んだ結果で補正すると正常区分の「A2」にやっと届いた状況です。

以上の経営指標から経営状態は不安定な状況にあり、現在教職員一丸となって財務改革に積極的に取り組むことを申し合せをして目標達成に頑張っております。

以上

3.主要財務比率の比較表

| 比率名 | 算式 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 |
|-----------|---|------|--------|--------|--------|------|
| 自己資金比率 | $\frac{\text{基本金} + \text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$ | 0.62 | 0.54 | 0.57 | 0.59 | 0.59 |
| 流動負債率 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$ | 0.92 | 1.02 | 0.88 | 0.90 | 1.19 |
| 人件費比率 | $\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$ | 0.52 | 0.57 | 0.61 | 0.56 | 0.46 |
| 人件費依存率 | $\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$ | 0.78 | 0.84 | 0.95 | 0.89 | 0.99 |
| 教育研究費率 | $\frac{\text{教育研究費}}{\text{帰属収入}}$ | 0.25 | 0.28 | 0.27 | 0.29 | 0.23 |
| 管理経費率 | $\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$ | 0.12 | 0.13 | 0.12 | 0.13 | 0.17 |
| 借入金利息比率 | $\frac{\text{借入金利息}}{\text{帰属収入}}$ | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.03 |
| 帰属収支差額比 | $\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$ | 0.06 | △ 0.02 | △ 0.05 | △ 0.01 | 0.11 |
| 学生生徒納付金比率 | $\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$ | 0.67 | 0.67 | 0.64 | 0.63 | 0.46 |